手紙

慶応元年九月九日　坂本乙女、おやべあて

坂本龍馬

青空文庫

私共とともニ致し候て、盛なるハ二丁目赤づら馬之助、水道通横町の長次郎、高松太郎、望月ハ死タリ。此者ら廿人斗の同志引つれ、今長崎の方ニ出、稽古方仕リ候。御国より出(ママ)しものゝ内一人西洋イギリス学問所ニいりおり候。日本よりハ三十斗も渡り候て、共ニ稽古致し候よし。実ニ盛なる事なり。

私しハ一人天下をへめぐり、よろしき時ハ諸国人数を引つれ、一時ニはたあげすべしとて、今京ニありけれども五六日の内又西に行つもりなり。然共下さるゝものなれバ、ふしみ宝来橋寺田や伊助まで下され候よふ御ねんじなり。

じつにおくにのよふな所ニて、何の志ざしもなき所ニぐず〳〵して日を送ハ、実ニ大馬鹿ものなり。

かへす〳〵〳〵も今日ハ九月節句とて、おやべがこんぺいとふのいがたが、おしろいにてふさがり候こと察いり候。ねこおいだき西のをくのゑんニて、ひなたぼつこふ大口斗へゝラ〳〵さつしいり候。

乙大姉ニ申奉ル。

扨、先日文さしあげ候。

よろしく御らん可被遣候。

〇ちかごろおんめんどふニ候得ども、実におねがいニ候間、御聞込つかハされかし。あのわたくしがをりし茶ざしきの西のをしこみ書物箱がありし、其中ニいかにもこげしかきがみかのひよふしかゝり候、小笠原流諸礼の書十本斗、ほんのあつさハ一分二分斗の本のあつさニて候。此頃あるかたより諸礼の書求くれよとあり候得ども、どふもこれなく、あれでなけれバどふもなり不申候。かならず〳〵めんどふとうちすておかずニ御こしつかハされたくねんじ候。

是よりおやべどんニもふす。

近頃御めんどふおんねがいニ候。どふぞ御きゝこみねんじいり候。扨、わたしがお国ニおりし頃ニハ、吉村三太と申もの頭のはげたわかいしゆこれあり候。これがもち候哥本、新葉集とて南朝楠木正成公などのころよしのニて出来しうたのほん也。にてできし本あり。これがほしくて京都にて色　求候得ども、一向手ニいらず候間、かの吉村より御かりもとめなされ、おまへのだんなさんにおんうつさせ、おんねがい被成、何卒急ニ御こし可被下候。

上申(うへに)上候乙大姉えの御頼の本、又おやべより被下候本ハ、入道盈進(エイシン)までおんこし被成候時ハ私までとゞき候。

もし入道盈進がおくにニかへり候時ハ、伏見ニておやしきのそバニ宝来橋(ハシ)と申へんに船やどニて寺田や伊助、又其へんニ京橋有、日野屋孫兵衛と申ものあり。これハはたごやニて候。

此両家なれバちよふど私がお国ニて安田順蔵さんのうちニおるよふな、こゝろもちニており候

事ニ候て、又あちらよりもおゝいにかわいがりくれ候間、此方へ薩州様西郷伊三郎と御あてのて、品ものニても、手がみニてもおんこし被遣候時ハ、私ニとゞき候。かしこ。

九月九日　　龍

おやべさん

京のはなし然ニ内　ナリ

とし先年雷三木三郎、梅田源二郎、梁川星巌、春日などの、名のきこへし諸生太夫が朝廷の御為に世のなんおかふむりしものありけり。其頃其同志にてありし楢崎某と申医師、夫も近頃病死なりけるに、其妻とむすめ三人、男子二人、其男子太郎ハすこしさしきれなり。次郎ハ五歳、むすめ惣領ハ二十三、次ハ十六歳、次ハ十二なりしが、本十分大家にてくらし候ものゆへ、花いけ、香をきゝ、茶の湯おしなどハ致し候得ども、一向かしぎぼふこふする事ハできず、いつたい医者（いしや）というものハ一代きりのものゆへ、おやがしんでハ、しんるいというものもなし。たま〳〵あるハそのきよにじよふじて、家道具などめい〳〵ぬすみてかへりたる位にて、そのとふじハ家やしきおはじめどふぐじぶんのきりものなどうりて、母やいもふとやしないありしよしなれども、ついにせんかたなく、めい〳〵とりわかり、ほふこふ致し候てありしに、十三歳の女ハ殊の外の美人なれバ、悪者これおすかし島原の里へまい子にうり、十六ニなる女ハだまして母にいゝふくめさせ、大坂に下し女郎ニうりしなり。五歳の男子ハ粟田口の寺へつかハせしなり。夫おあねさとりしより、自分のきりものをうり、其銭をもち大坂にくだり、其悪もの

二人をあいてに死ぬるかくごにて、乃(ハ)ものふところにしてけんくわ致し、とふ〳〵あちのこちのといゝつのりけれバ、わるものうでにほりものしたるをだしかけ、べラボヲ口(グチ)にておどしかけしに、元より此方ハ死かくごなれバ、とびかゝりて其者むなぐらつかみ、かをしたかになぐりつけ、曰(イハ)ク其方がだまし大坂につれ下りし妹とをかへさずバ、これきりであると申けれバ、わるもの曰ク、女のやつ殺すぞといゝけれバ「女曰ク、殺し殺サレニはる〳〵〃〵大坂ニくだりてをる、夫(それ)ハおもしろい、殺セ〳〵といゝけるニ、さすが殺すというわけニハまいらず、とふ〳〵其いもとおうけとり、京の方へつれかへりたり。

めづらしき事なり。かの京の島原にやられし十三のいもふとハ、としもゆかねバさしつまりしきづかいなしとて、まづさしおきたり。夫ハさておき、去年六月望(もちづき)月らが死し時、同志の者八人斗も皆望月が如戦死したりし。

そのまへ此者ら今の母むすめが大仏辺にやしないかくし、女二人してめしたきしてありしが、其さわぎの時、家の道具も皆とりでの人数が車につみとりかへりたれハハ、今ハたつきもなく、自分ハ母と知定院と言亡父が寺に行、やしなハれてありし。日　喰(クウ)やくハずに、じつあわれなるくらしなり。

此あとハ又つぎニ申上る。

右女ハまことにおもしろき女ニて月琴おひき申候。今ハさまでふじゆうもせずくらし候。此女私し故ありて十三のいもふと、五歳になる男子引とりて人にあづけおきすくい候。又私の

あよふき時よくすくい候事どもあり、万一命あれバどふかシテつかハし候と存候。此女乙大姉をして、しんのあねのよふニあいたがり候。乙大姉の名諸国ニあらハれおり候。龍馬よりつよいというひよふばんなり。

○なにとぞおびか、きものか、ひとつ此者ニ御つかハし被下度、此者内　ねがいいで候。此度の願候よふじハ、

乙さんニ頼候ほん

おやべニ頼みしほん

夫ニ乙さんのおびか、きものかひとすぢ是非御送り、今の女ニつかハし候。今のの名ハ龍と申、私しニにており候。早々たずねしニ、生レし時父がつれし名よし。

○そして早　忘れし事あり。あの私がをりし茶ざしきの西の通りがある、其上ニ竹が渡してゑやら字やらなにか、とふしニ記し候ものあり、其中、順蔵さんのかきしものあり。御送り、そして短尺（タンシヤク）箱に母上―父上の御哥、おばあさんの御哥、権兄さんのおうた、おまへさんの御うたこれありけり。なニとぞ父上母上おばあさんなど死うせたまいし時と日と、皆短尺のうらへおんしるしなされおんこし。この中ニ順蔵さんが私しニおくりし文がとふしニしるし、大てい半紙位のものあり、御こし。是ハ英太郎が父の者ほしがり候間、つかハし候。

夫（それ）ニ此度の御ねがいハ、それ／〃＼おんきゝすてなく御こしねんじ、かしこ。

九月九日

龍

乙あねさん
おやべどん

御頼のもの
かず〳〵並ニ
おはなし
長き御返じ
被下度候。

青空文庫情報

底本：「龍馬の手紙」宮地佐一郎、講談社学術文庫、講談社
2003（平成15）年12月10日第1刷発行
2008（平成20）年9月19日第7刷発行
※底本手紙の写真のキャプションに、（京都国立博物館蔵）とあります。
※丸括弧付きの語句は、底本編集時に付け加えられたものです。
※直筆の手紙の折り返しに合わせた改行は、省いて入力しました。
入力：Yanajin33
校正：Hanren
2010年7月24日作成
2011年6月17日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

手紙

慶応元年九月九日　坂本乙女、おやべあて

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

著者　　坂本龍馬
URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/